

2008年6月定例会 ポートピアの説明会を求める請願、

住民投票を求める請願に対する賛成討論

中村一子

町の予算規模の0.2%である2400万円が町に入ってくることと、今後子どもたちや家庭に及ぼす悪影響を考えると、比べて考えてみるとポートピアは将来の津幡町にとっていいものを何も生み出さないとします。不安を持つ住民や、ギャンブルに抵抗感を持っている多くの町民の気持ちにも答えず、説明会もないまま、町はポートピア建設へと動いていいのか。説明会開催の請願を議会が不採択にするとしたら、住民の中には「議会は閉ざされている」という印象をもつものがでてきても、仕方がないことではないかと思えます。

今年、議会は「議会制度検討委員会」を設置し、町議会が抱えている課題について広範囲に検討する取り組みを始めています。委員会では、いまさまざまな問題点について、検討中とのことですし、わたしはその成果を期待しています。

町議会が抱えている課題には、情報公開に関することもあり、議会は町民に開かれたものでなければいけない。

説明会開催の請願を認めるということは、町民からみれば、議会は町民にひらかれたものだということにも繋がるのではないかと思えます。

昨日の議会全員協議会の場で、総務常任委員会から、説明会開催の請願に対し不採択になったというその理由のひとつに「議論を重ね、これまでも検討してきたという意見が多かった」ということが報告されました。ここでいわれた「議論を重ね、検討してきた」のはだれか。それは議会であり、議員です。いままで議会は十分に検討してきたのかもしれませんが、今も、町民から説明会の請願がでているということはどういうことなのか。町民はポートピアについて知りたいと思っている。どんなものが津幡町にできるのか、不安に思っている。2006年度の広報の紙面上での説明では、わからないといっている。だから、説明会を開いてほしいといっている。このことは、町民には議論するにも、検討するにも、そのための資料が、いまだに与えられていないということなのです。判断するための資料がないままでは、住民個人は議論することも検討を重ねることもできません。

何度でも、この場で言いたいことです。説明会を求めている町民に対し、「議会は議論を重ね、十分に検討したのだから」という理由で、説明会を開く必要なしということになるとしたら、これは、どういうことを示しているのだろう。

説明会を開かないということは、町民には知る権利もないということなのか。説明会を

ひらかないとしたら、そういうことになるのではないか。

ここで議会が説明会を求める請願を不採択にするとしたならば、町民の知る権利をなきものにしているということだとわたしは思います。

町民には検討する余地も、議論する余地も与えられていないということになるのではないかと思います。

議員はポートピアを視察し、議論を重ね検討してきた。しかし主人公である町民には、いまだポートピアについて知らされていないということ。この事実をよく見極めてほしい。

最近、議会報告会を開く自治体が増えているということ、聞きました。たとえば議員がポートピアを視察し、議論を重ね検討してきた内容を、住民に報告し、そこで住民の声を聞く。その繰り替えしのなかで、真に町民の声が届く議会となるのではないか。説明会を開くことは、その第一歩であり、その第一歩がいまだにされないまま、ポートピア設置へと、歩き始めています。

ふりかえれば、地元舟橋区からのポートピア誘致の請願に関しても、地元住民がポートピアについて熟知した上での請願だったのかというと、そうではないという事実が、議会で公にされてきているのではないですか。

本当にポートピアを知った上での舟橋区住民からのポートピア誘致の請願だったのか、同意の取り方を始めとして、それは疑わしいということも、議会で再三のべられてきましたし、WF 企画から船橋区への当初の説明では、1 億円以上の環境整備費がはいるとなっていて、2400 万円とは大きな違いであること、また、雇用に関しても100 人程度の本採用が保障されるとあるが、施行者である自治体でさえパート労働に切り替えているなかで、そのようなことが実現するのかなど、不安な材料もあきらかにされてきました。

しかし、これらのことは、住民には説明されていません。

今後の課題として、わたしは住民討論集会の開催へと呼びかけたいくらいです。

津幡町におけるポートピア問題の根っこにあるものは何でしょうか。それは住民に対してポートピアに関してきちんと説明されてこなかったということ、説明のないまま、ポートピア誘致が走り始めてしまった。わたしはこのことこそが仮称ポートピア津幡の問題の根源なのだといいたいのです。

今も町民が説明会を求めているということは、町民には、いまだポートピアについて知らされていないのだということを議会は認識するべきです。説明会への請願に対し、議会はポートピア賛成、反対という意見の違いで、説明会開催を否定するべきではありません。

議会はこれを、ポートピア賛成、反対の立場を超えてうけとめるべきだと思います。(説明会の開催には、反対、賛成の議員の意見が入る余地がないようにしなければいけないし、町側のポートピア設置を前提にした説明会であってもいけない)。町民の疑問、質

問、意見に対し、賛成、反対を問わず、耳を傾けるべきで、そのための説明会を開くべきだと思います。町が説明会を開かないということは、住民にポートピア賛成、反対の意見を問う以前の問題だとわたしはっています。説明会を開かないこのような状態では、住民は賛成も反対もない、でしょう。説明会は行政間の協定を結ぶ前にするべきだと、わたしはいい続けてきましたが、協定が結ばれた今にいたっての説明会のその内容はどのようなものになるのか、誘致先行が懸念される説明会となることも考えられますが、とにかく説明会はいますぐ、ひらかれるべきです。

ポートピアは住民投票とするような事項ではないという意見も、総務常任委員会が出ていたという報告があり、町長も住民投票はそぐわないとっています。たしかに過去の住民投票は、原子力発電所の立地や、廃棄物処分場、大規模ダム、空港建設などの是非、市町村の合併問題等に関して、行われている例が多い。

しかし今、住民投票を求める町民の意思表示をどうみるのか。ここで議会に問われていることは、なにかを考えるべきです。

この請願は、町民の意思を町政に反映させ、町民と行政との協働によるまちづくり（協働とは、あらゆる市民が相互に連携し主体的にまちづくりに寄与していくことが本義であるといえる。）をしていくためへの提言であり、あらゆる市民が相互に連携し主体的にまちづくりに寄与していくこと、このことが今、議会に問われているのだと思うのです。住民からの住民投票への願いは、住民が町政に関心を示し、自らの意見を発言したという、民主主義の原点ともいえることなのだと思え受け止めるべきで、説明会開催の請願と同様に、住民投票の請願は、ポートピア賛成、反対の立場で判断されるべきことではなく、広く町民の声を聞くという立場に帰って、住民発意を尊重し、この2つの請願を捉えるべきです。

ポートピアに関して町民のさまざまな声を聞くべきであり、たとえばその結果ポートピア賛成が多数となり、町と議会が示した方向性、つまりポートピア誘致となるのならば、多くの住民も納得できるのではないかと思います。

とにかく住民の判断をおおぐにしても、その前にポートピアの説明会がなければ、判断の仕様がありません。行政は説明責任を果たしていないから、このような請願があがってくる。

町民からの住民投票という請願は、町民と行政との協働によるまちづくりをしていくための、町政に対する町民からの能動的な意見であると同時に、町民の声に耳を傾けてほしいという切実な声であるとも受け止めるべきです。

これらの声を受け止めずに、今後、ポートピアの環境委員会が設置されても、情報が一般市民に公開されていない状況で、説明会がされないという状況で、このようななかでは、本当に住民の声が届くのか。環境委員会に対しても大きな不安を持つ人たちが、現れることとなるでしょう。

最後にもう一度、いいます。

問題の根源はなにかといたら、住民に対して、ポートピアに関する説明がいまだにきちんとされていないということ、地元地区を始めとして、町民に対する説明のないままに、ポートピア誘致が謳われていった。これが仮称ポートピア津幡の問題の出発点であり、根っこなのだとのことです。

だから、わたしはポートピア説明会開催への請願と住民投票を望む請願に対して、公明正大さ、公平で隠し立てのない、すこしもはじることのない、そのような議会の判断を望むものです。

2月19日の町長への公開質問会に際し、坂本総務部長は、ポートピアの説明会は町が主催するものではなく、運営会社がするものだと言いました。しかし、この言葉は問題のすり替えにすぎません。ポートピアを受け入れる是非を考察する場には、運営会社の出る幕はないからです。みどり市と行政間協定を結ぶ前に、町はポートピアがどういうものか、ポートピアができたなら町はどんな影響を受けるかなどを町民に説明するべきです。ポートピア計画への町民の疑問に答えるのは、あくまでも町の責任です。町は説明会も開かず、説明会までもグットワンにお任せし、ポートピア全般に対しての町民のコンセンサスを得ることなくして、このままポートピア津幡を作るつもりですか。このままでは、ポートピア受け入れを表明した町長は、町民に対する説明責任を一切果たしていないことはあきらかです。町民を無視し愚弄すること、はなはだしい。

(中村一子による参考資料)

- 1) 津幡のポートピアというギャンブル場を設置することに対し、ポートピアなど作らないで欲しいというたくさんの人々の声を、この議会に届けることを続けていかなければならない。
- 2)
 - ・ ポートピアから環境整備費としてはいると想定されている2400万円は津幡町にとって本当に必要なものなのかと、町民の方から聞かれたことがありました。
 - ・ 2400万円という金額は津幡町の人口ひとりあたりだと、645円に相当し、4人家族の家庭の場合、約2500円。(2400万円を津幡町人口37180人でわると一人あたり645円になる。)
 - ・ また、平成20年度の一般会計予算は113億3000万円であり、2400万円は、町の予算規模の1パーセントにも満たない0.2%にあたります。